みぬま通信 第83号
2020年7月

見沼田圃の保全・活用・創造に向け更なるお力添えを

埼玉県企画財政部土地水政策課長　石川　護

見沼たんぼくらぶ役員、会員の皆様におかれましては、長年にわたり見沼田圃の魅力を普及・啓発していただいておりますことを、深く感謝申し上げます。今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、残念ながら一部の活動を中止していただいておりますが、これまでの多彩な活動、例えば、ふれあい農園づくり、自然観察ハイキング、清掃ボランティア、斜面林の体験学習、見沼塾などを通じて、見沼田圃の保全・活用・創造に貢献していただき、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

さて、見沼田圃は、首都近郊に残された貴重な大規模緑地空間で、豊かな自然が残された地域です。周辺には氷川女体神社などの神社仏閣、竜神にまつわる多くの伝説、見沼通船堀などの歴史的な遺構も数多く残されております。県では、貴会をはじめ市民団体の御協力をいただきながら、見沼田圃における農業体験や自然とふれあうイベント等を実施しております。イベント参加者へのアンケート調査では、「見沼の自然の中で活動でき、とても楽しかった。」「このイベントで見沼田圃の良さを知った。」「いつまでも残しておきたいものだと思った。」といった感想をいただいております。

見沼田圃の保全・活用・創造を図っていくためには、今後は感染拡大予防に向けた「新しい生活様式」も踏まえながら、行政だけでなく、地権者、一般県民、市民団体など、多くの方々から御理解と御協力をいただき取組を進めていくことが不可欠でございます。見沼たんぼくらぶ役員、会員の皆様には、今後も更なるお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

菜の花栽培

さくらの花が咲く頃になると見沼たんぼの所どころで菜の花畑が見受けられます。特に見沼グリーンセンター南側の菜の花畑はさくらと風車に溶け込んで素晴らしい景観を形成しています。

当くらぶでも見沼たんぼの美しい景観形成の一助となるよう菜の花栽培を行っています。今回の場所は緑区見沼６１０の畑で面積は２０００㎡（昨年まで３年間里芋・八つ頭等栽培をしていた１号地）です。

さくらの開花時期に合わせて菜の花が見ごろを迎えるよう１１月中旬に3ℓの種を播きましたが、今年はさくらの開花が例年より早くピンクと黄色の花の共演とはなりませんでした。写真は満開に咲いた菜の花畑です。

例年ですと保育園児による花の摘み取りを実施しているのですが、新型コロナウイルス禍の影響で中止といたしました。

秋には同じ場所でコスモス栽培を行います。

（三上　雅央記）

見沼たんぼくらぶのイベント

京芋・里芋・八つ頭・生姜栽培

今年で９回目の栽培が始まりました。例年ですと、４月下旬の種芋の植え付けから９月上旬の除草まで全６回の農作業を行い、秋の収穫期を迎えるのですが、今回は新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、４月、５月の参加者による種芋の植え付けと除草作業の２回が中止となりました。６月以降については日程どうりですが、今後の感染状況によっては変更になる可能性があります。

去年まで３年連続で栽培した１号地から連作障害を避けるために、栽培場所が変わりました。新し場所は國昌寺西側の「緑区大字南部領辻三角下１８１～１８３－１」（新３号地）で面積は約２２００㎡です。

新３号地の土壌は従来の３号地のような殻や石ころもなく、里芋等栽培には適した土地に見えますが、梅雨時や台風の大雨後の水はけ具合は少し気になります。

農作業１回目の種芋の植え付けは遅くとも５月中旬までに行う必要があるため、担当役員５人だけで当初予定４月２３日を２週間遅れの５月７日に変更して実施しました。（緊急事態宣言発出中のため少人数で作業）

新３号地の畑づくりも担当役員で行いました。まず、４月下旬に除草と耕耘で整地を行い、５月上旬に肥料の鶏糞３００kg（１５kg×２０袋）、化成肥料１２０kg（１０kg×１２袋）を畝毎に施し、その後マルチ張り機でマルチを張りました。

一畝のマルチの長さは約４０メートルですが、真っすぐに張るのが上手くいかず蛇のように曲がった畝が何本かあります。機械に慣れてきた後半は真っすぐに張ることが出来るようになりました。マルチ張り機は昨年（公益財団法人）サイサン環境保全基金より助成をいただき購入したものです。

植え付けた種芋等の種類と畝数は里芋６、八つ頭３、京芋１、大身生姜１、谷中生姜３と海老芋２の計１６畝です。植え付けた芋と生姜の量は昨

年とほぼ同じです。海老芋は昨年の参加者から要望があり、初めての栽培になります。海老芋の種芋は農協の直売所やホームセンターなどで販売がなく、なかなか見つかりませんでしたが、役員の知り合いの種苗生産農家に頼んで、なんとか手にいれました。今回、海老芋が成功したら継続して栽培します。

今年も天候に恵まれ例年どうりの大量の収穫になればと期待しております。

秋の収穫日には恒例となっている福祉団体への寄贈及び保育園児の収穫体験を行います。

（三上　雅央記）

見沼たんぼ地域の会員関係イベント

****　まぼろしのワラ塚ー見沼たんぼのフナノ復元　****

ＮＰＯ法人見沼ファーム２１の執念みのる　！

（さいたま市見沼区加田屋の田圃に造成されたフナノ）

１９５０年代後半（昭和３０年代後半）まで、見沼たんぼ地域では、稲刈り跡の風物詩ともいうべきワラ塚(船を模したフナノ)が農家の庭先で見られた。豪農は広大な物置にワラを保管できた。しかし、中農はワラを保管する建物はなく、ワラ塚を思いついたようだ。見沼通船をイメージしてか船型に積み上げた。

森の少ない見沼たんぼでは、燃料とする薪炭が少なく、煮炊きの燃料にはワラが必要だったのかもしれない。燃料をはじめ田畑の肥料、家畜の餌、籠や草履といった生活用具の材料として必要に応じフナノからワラ束を取り出したようである。

このフナノ復元に取り組んだのは、稲田づくりの市民グループＮＰＯ法人見沼ファーム２１である。

そのキッカケは、２００７年秋、埼玉県立近代美術館で日本各地のワラ塚展示展があり、その際、材料のワラを同会が提供したことに始まる。

しかし、展示物に県内のものはなかった。学芸員に「ワラ塚は見沼たんぼにもあったのでしょうか？」と尋ねても、「ありません。文献に出ていませんから。」と言われた。

メンバーは見沼たんぼ地域の農家を訪ね歩いて、ワラ塚の写真をいろいろ見ていただいた。「これ子どもの頃見ています。フナノと言うのです。」などと多くの方から確認できた。

見沼区加田屋でフナノづくりの経験者である三枝武三さんに遭遇した。「高校生の時に祖父に作り方を習ったが、５０年ほど作っていない。」と言う。

それで、２００８年秋、三枝さんの指導で半世紀前の作り方そのままのフナノを見事復元した。

それから、一年おきに、晩秋３日ほどかけて制作。テレビや新聞紙上で紹介されるなど、人々の関心が高まる中、同会の会員が呼びかけ市民有志がフナノ制作に参加。その後２０１６年「見沼たんぼの文化遺産・フナノ保存会」を結成、見沼たんぼくらぶも参加した。今年はフナノ制作の年である。

材料はＮＰＯ法人見沼ファーム２１を中心に見沼の農家や NPO から藁を集め、少なくとも５反で獲れた稲のワラが必要だ。ただ無造作に積み上げるのではない。フナノの胴の部分は、ところどころ編み込みながら穂先を内に向けて束を積み上げ、周囲に縄を巻いて固定する。その上に、穂先を外に向けた束を積み重ねて雨よけのための屋根を作る。

こうして、幅２．５ｍ、長さ５ｍ、高さ約３ｍのフナノが完成するのである。

保存会代表の島田由美子さんは、「優れた稲作文化の伝承と共に、使い捨て文化を考えるキッカケになれば嬉しいです。」と話している。

（小野　達二 記）

見沼たんぼ水彩スケッチ紀行

絵と解説　　八木一郎

庚申塔と旧丸山稲荷社本殿（民家園）

「浦和くらしの博物館民家園」の一角に二基の庚申塔が移設されている。庚申塔は「庚申信仰」により地域の人たちが「庚申講」をつくり、健康長寿を願ってたてたもの。

６０年に一度巡ってくる庚申の日の夜は、体中の悪い虫が抜け出して昇天し人々の不幸を訴えるので、人々は寝ずに楽しく過ごし悪い虫の昇天を妨げたといわれ、疫病神の侵入を防ぎまた道標の役割もはたした。

並んでいる小さな社は桜区の氷川神社から移築された１７３８年（元文３年）名主の村田作五衛門が建立したもので、地域村落の神社建築の歴史を知る上でも貴重な建物。

正福寺の桜（さいたま市見沼区）

正福寺は東武線大和田駅から東へ約１ｋｍにある真言宗智山派の寺院で自在山蓮華院と号し、足立８８か所の霊場、新秩父３４か所２６番の霊場で十一面観音を安置する。

小島家の長屋門

土呂駅の東を流れる見沼代用水西縁に沿った神明社の北に位置する小島家は、江戸時代に地域の名主を務めた由緒ある旧家。

市の文化財に指定された貴重な古文書などが多数残されており、幕府の追及を受けた幕末の蘭学者・高野長英を匿った際、お礼に残したギヤマンの皿なども保管されている。

見沼たんぼくらぶ会員作品展

見沼自然公園の中の散歩道

作者　　入江　博司

11 月下旬の暖かな小春日和の一日、公園の中の池を取り巻く散歩道。右手前の草群・やぶの感じがうまくかけませんでしたが、のどかな日差しの中で気持ちの良い時間を過ごすことができました。

見沼たんぼ探訪記

桜花の賑わいを奪う新型コロナウイルス

大宮公園へ３月２８日の土曜日に行くと、約１０００本もあるという桜木は、場所によっては幾分散り初めていた。が、多くの桜木はまだ満開の花々を楽しませてくれるのだった。当地は例年ですと「桜祭り」が催され、訪れる人は約１５万人にも及ぶほどで、満開の桜の下ではレジャーシートを敷き広げた多くの花見客で埋め尽くされる。

（お花見宴会等の自粛を告げるお知らせ）

しかし、今年の園内の様子は一変しており驚くばかりだ。園路にはボンボリの飾りも見られず、露天のお店も全く見られない。観桜に訪れている人たちは、ポツンポツンとしか見受けられず園内は閑散とした雰囲気に包まれたままだ。こんな寂しい公園を目にする事はこれまでに覚えがない。

昨年１２月から問題になった「新型コロナウイルス」の感染が世界各地に拡散し、今やこの感染者が日本の首都圏でも急増。感染者の爆発的な増加（オーバーシュート）や都市封鎖（ロックダウン）を回避するために、1 都 4 県の知事が先日テレビ会議を開き、週末の外出や首都圏への往来の自粛を呼びかけたが、そうした影響であろう。

大宮公園の満開の桜花の賑わいは、新型コロナウイルスによってすっかり奪われてしまったようで、このようなことは初めての事である。

（召田　紀雄記）

注）・・・新型コロナウイルスの日本での感染者の状況（3 月 31 日現・カッコ内は死者）：２，２０３（６６）、クルーズ船７１２（１１）。同日の世界の状況：①アメリカ１６４，６１０（３，１７０）　②イタリア１０１，７３９（１１，５９１）　③スペイン９４，４１７（７，７１６）。

見沼たんぼ農園づくり１号地の雑草

令和元年の農園づくり１号地の５～７月の記録です。雑草とは広辞苑によれば、「自然に生えるいろいろな草。又、農耕地で目的の栽培植物以外に生える草。たくましい生命力のたとえに使うことがある。」とあります。個々の草の名前ではなく、 庭や耕作地などで目的に反して勝手に生える草類の総称です。従って、栽培種以外のいわゆる雑草と呼ばれる邪魔で除草の対象となります。1 号地での栽培の京芋・里芋・八つ頭・生姜の生育の障害となる草類は全て除草となります。１号地の作業日は、５～１１月までに９回ですが、植付け及び収穫以外の作業は主に除草が主体です。除草は、畑の周囲及び作業準備の空き地は除草機の活用ですが、栽培区域は除草機が殆ど入らず、除草剤は不散布ですので、主として手作業に拠ります。雑草の除草は夏期の作業、８時からの作業となります。

雑草は２８科７２種ありました。中でも、キク科・イネ科・マメ科の種が多く、この３科で３３種もあり、種全体の４６％を占めます。キク科１５種と最も多く、次いでイネ科１２種、マメ科６種です。これらの種の多くは成長も早く背丈も栽培種よりも高く成長する場合もあります。又、帰化種は１４種３１種と科の半分,種の４３％と多くを占めます。この内、キク科ではオオアレチノギク・コセンダングサ・ハルジオンなど１０種を占めます。イネ科もイヌムギ・ネズミムギなど背の高い種があります。これら帰化種は海外から来て、新しい土地で生き残っただけに旺盛な繁殖力を有しており除草には要注意です。

更に、多年草も、可成り多く、１３科２０種占めております。これらは根まで除去しないと次年度も生えてきます。中には、根が耕耘時に切断されても、その切断された根からも更に発芽されるナガバギシギシような厄介種もいます。

（若野 忠男記）

見沼たんぼの仲間たちNo.５４

橋 壽 の 百 姓 道 楽

大宮シニアライオンズクラブ　　宮本　晴夫

今年で８４歳になる。

ハシジュという賀寿だそうだ。この齢まで病気もせずに生きて来れたことに感謝し、人と人との架け橋になって、世のため、人のために尽くしなさいという神の思し召しだろう。この恵まれた健康の原点は、やはり還暦後から始めた「百姓道楽」にあるようだ。

玉ねぎ３００個も獲れて嬉しい悲鳴

「道楽」だけに金もかかるが、７区画を独占している１００坪ばかりの貸農園は、わが天国で、多少の出費はやむを得ない。

借りている畑は道路際、ご夫婦で散歩されている人からよく話しかけられる。「収穫が楽しみですね」などと、種を蒔いたり苗を植え付けているときに決まって頂く台詞だ。

「はい、収穫が一番の苦痛です。」

「ふ~ん……？」数が少ないスイカやメロンならいいが、玉ねぎなんか３００個も収穫しようものなら大変だ。向う三軒両隣は勿論、親戚縁者に送りつけても余ってしまう。レジ袋に入れて通りすがりの人にもご協力をお願いすることになる。

上手く作るコツは愛情

畑仕事も二十年以上もやっていると、ノウハウが身につく。出来栄えの良い畑を見て「上手く作るコツは何ですか？」これはよく聞かれる質問だ。

「愛情です」「はあ？」「野菜も生き物です。愛情で決まります」「ふーん」こんなやり取りもしばしば。

「愛情とはよく見つめてやることです。肥料をやれば良い、水をやれば良いというものではありません。よく見つめてやれば、いま何が必要なのか、作物が訴えていることが分かります。

ジャガイモなら「芽欠きして欲しい」トマトなら「早く脇芽を取り除いて」とか、キャベツでは「青虫を何とかして」等々。子供も野菜も健全な育成の基本は愛情だと思います。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

私どもライオンズクラブとしても、常々「見沼たんぼくらぶ」の農園づくり活動には敬意を表しており、今後も支援を続けていきたいと考えています。

見沼たんぼを支える農家さん

「こばと農園」田島友里子さん

さいたま市立病院から東に進んだ芝川の近く、無肥料・無農薬の自然栽培で四季折々の野菜を育てている「こばと農園」の田島友里子さんは、見沼で新規就農して3年目になります。学生時代は美術の勉強をしていましたが、卒業を迎え就職を考えた時、自分の気持ちにぴったりはまったのが農業というシンプルな生き方だったそうです。農業の原体験は、子供の頃、兼業農家だった祖父の家にサラリーマンだった父が折々に手伝いに行くのについて行って田んぼで遊んだ、日常としての日々でした。

20 代はどっぷり農業に浸かって色々な経験を積みたいと、北海道で研修を受けて、そのまま就職。日本の食を支えている北海道の農業の現場を見て、肌で感じたこと、そして有機農業や自然栽培だけでなく、慣行農業、大規模農業、酪農、畜産など様々な農の現場を体験したことはとてもいい経験になったそうです。その経験より感じたことは、今の日本の農業は農薬も肥料も種もすべて海外に頼っている状態ということ。持続可能かというと疑問だ、という田島さん。自立した農業を営むために、自然栽培という選択をし、種取りできるものは自家採種したいと、固定種や伝統野菜の栽培も積極的に行っています。

（田島友里子さん）

30 歳になったら独立しようと思っていたそうですが、結婚を機に埼玉に移ったことで、県の農業大学校を経て見沼で就農しました。また、農業は一人でやるものではなくて、まわりの農家はもちろん、食べて下さるお客さん、機械屋さんや種屋さんなど、関わるすべての人達を含め、地域でやるものだと考えています。なので主に農家の若手後継者がメンバーの「さいたま 4Hクラブ」や農協の組合員にも所属し、地域の活動にも積極的に参加しています。

今は、公務員の夫(単身赴任中)と1歳と5歳のお子さんのいる家庭を切り盛りしながら、6反5畝の畑を一人で耕作しています。さぞ多忙な日々を送っておられると思いますが、「畑が大好き、一日中ずっと畑に居たいくらい」と話される穏やかな明るい笑顔を見ていると、なんだかこちらがほんわりとゆるやかな気持ちになります。これからの季節は玉ねぎ、ジャガイモ、ズッキーニ、ミニトマト、オクラなどの夏野菜が続きます。

（ジャガイモの畑）

訪れたのは、雲の多い雨上がりの日でしたが、刈り取りを間近に控えた種取りのためののらぼう菜が、深々とした黒い土の上で気持ちよさそうに思い切り葉や茎を伸ばしていました。

取材：島田由美子・高橋いずみ
文責：高橋いずみ)

(注)　こばと農園の野菜は以下で販売しています。

わくわく広場　イオンモール与野店　Tel 048-856-7142
わくわく広場　ステラタウン大宮店　Tel 048-662-0831
JA さいたま　木崎ぐるめ米ランド　Tel 048-834-2890
戸別宅配　：　Tel 080-3069-6101
Email kobatonouen@gmail.com
HP:https://kobatonouen.com/home

見沼たんぼくらぶのイベント案内

秋野菜栽培

２号地（さいたま市緑区見沼４８４）

＊　見沼氷川公園の南側

農地はスタッフが耕運し、畝づくりを済ませ、種蒔きからの手作業ですから、畑づくりの未経験者、子ども連れの参加を歓迎します。栽培種は、大根各種・かぶ・小松菜・法蓮草・春菊・水菜の予定です。

①　９月　５日（土）種蒔き
②　９月１９日（土）除草、間引き
③　１０月　３日（土）除草、間引き、収穫
④　１０月２４日（土）除草、間引き、収穫
⑤　１１月１４日（土）収穫

１０時～１２時（９時３０分より受付）

＊　雨天順延

申込み：７月１５日までに事務局へ葉書で住所・会員番号・氏名・年齢・電話番号を明記（同居の家族同伴者の氏名・年齢併記のこと）

参加費：無料（諸経費は埼玉県負担）

※　会員外は埼玉県土地水政策課に申込み、応募者多数の場合は抽選となります。

里芋・京芋・八つ頭・生姜栽培

新３号地（さいたま市緑区南部領辻字三角下）

④　７月　９日（木）除草
⑤　９月　３日（木）除草

８時～１１時（７時３０分より受付）

＊雨天順延　晩秋の収穫日は後日決めます。

＊会員申込者限定　福祉施設・保育園に寄贈

第１２１回見沼塾『見沼たんぼの昆虫観察』

《初心者・子ども連れ歓迎》

９月１２日（土）１０時～１２時

合併記念見沼公園管理棟集合

講師：萩原　昇 先生

申込み：当日、集合地で９時３０分から受付

参加費：無料

交　通：大宮駅東口からバス④自治医大行き終点、下車、南側（大宮発９：００、約１０分乗車）

第８１回自然観察ハイキング

見沼の自然と史跡を訪ねて

９月２０日（日）９時・大宮駅東口（北寄り）「子リスのトトちゃん像」前受付、スタッ誘導で、路線バス⑦「根木輪」下車

コース：根木輪…常泉寺（広島・長崎の火）…加田屋新田（ヒガンバナ）…見沼自然公園

申込み：当日、集合地で８時３０分より受付

参加費：￥５００（ただし、会員は無料）

見沼たんぼくらぶ会員募集中！

◆　埼玉県土地水政策課の支援の下に、見沼たんぼ緑地の里やまで、様々な体験事業を展開しています。子どもから年寄まで

◆　季刊『みぬま通信』を郵送します。
４月・７月・１０月・１月発行
Ａ４判・オールカラー８ページ・コート

◆　年会費　個人（同居の家族単位）・団体や企業とも１口￥１，０００以上
（団体・企業は３口以上）

会員の皆さんの寄稿をお願いします！

見沼たんぼ地域に関わること何でもＯＫ

例えば、「見沼の〇〇を歩いて」

「見沼たんぼと私」イラストや写真歓迎。

Ａ４判１ページ　問合せ：事務局・小野

みぬま通信第８３号

発行日　令和２年月７月１日

発行所　見沼たんぼくらぶ

〒３３７－００５３　さいたま市見沼区大和田町１－２１２４－３　小野方

TEL・FAX　（０４８）６８３－１７６４

E-mail　t.ono@axel.ocn.ne.jp

ＵＲＬ　http://minumatanbo.web.fc2.com/

© 2020 Minuma Tuusin